



みみだより

松江ろう学校 支援部

No. R1-3 2019.11.1

11月になり、日に日に秋が深まっていますね。今号では、「生活に役立つ機器」、「中高等部の自立活動について」をお伝えします。

生活に役立つ機器…たくさんあります！

松ろう祭では、毎年、東神実業さんのご協力により、生活に役立つさまざまな機器を展示しています。「こんなものがないかな～」と思ったとき、例えば、機器をお借りした聴覚障がい者支援グッズ専門店である「自立コム」のHPを見てみると、次のような用途別に機器が紹介されています。

| | | |
|------------------------|-----------------------------|----------------|
| 来客を知りたい！ | 電話・携帯の着信を知りたい！ | 赤ちゃんが泣いたら知りたい！ |
| 火災警報が聞こえない | Fax、テレビや会話の音声や文字化した情報を受信したい | 会話中相手の声が聞こえない |
| 聞こえない人を呼びたい！ | 目覚ましが聞こえなくて起きられない | 電話・携帯で通話したい |
| 補聴器をしながら音楽やテレビの音声を聞きたい | 耳鳴りが気になる | 聴力を保護したい |

そこで、『来客を知りたい！』をクリックすると、さまざまな機器が紹介されています。業者もたくさんあります。一人暮らしを始めるとき、ちょっとした不便を解消したいとき、お役に立つグッズがあるかもしれません！

ベルマンビジットシステム

センサーが来客・電話/FAX/スマホの着信・赤ちゃんの泣き声・火災に対応。受信機を選ぶことで、光・振動・大音量など、お好みの方法で知ることができます。

BELLMAN VISIT SYSTEM



日常生活用具給付対象品とは

身体障害者手帳を所持する方で、日常生活上必要と市区町村が認める世帯に対して給付される製品のことで

松江市では、火災警報器、聴覚障がい者用屋内信号装置（サウンドマスター、聴覚障がい者用目覚時計、聴覚障がい者用屋内信号灯を含む）、聴覚障がい者用情報受信装置などに補助が出来ます。購入の際には、各市町村に確認しましょう。

自立活動の紹介…中学部 ～手話学習会の取組～

中学部では、地域の方に手話を教える『手話学習会』を自立活動の学習として行っています。今年は、①コミュニケーションを楽しむ。②手話の魅力を再発見する。③マナーを身につける。の3つを目標に取り組みました。

事前学習では、広戸先生から手話について改めてお話をいただきました。手話は「目でみる言葉」なので、手の動きだけでなく、体、目の動き、表情をつかって話すことが大事であることを聞きました。また、両手を上手に使ったり、位置や方向を意識して空間を使ったりするなど、より伝わりやすくするための工夫を学びました。

初級グループは、お客様が手話で自己紹介できることを目標に、どんな項目を紹介してもらうのか、どのように教えるのかを考えました。中・上級グループは手話で歌を歌えるようになろう！を目標に、歌選びから始め、歌詞をより表現するための手話を考えました。どちらのグループもお客様に楽しく過ごしてもらうために前日まで準備をしました。



当日は過去最高の19名の方が参加してくださいました。最後の成果発表では、お客様が発表する様子を心配そうな顔で見守り、一緒にドキドキしている姿が見られました。生徒からは「手話を使って自然とコミュニケーションが取れた。」「手話がもっと広まるといい！」という感想が聞かれました。手話を介してのコミュニケーションを楽しみ、手話の魅力を再発見した手話学習会となりました。

自立活動の紹介…高等部 ～各学年の取組～

産技科1年生の自立活動では、具体的な事例を通して普段の生活の見直しを中心に行っています。改善方法や生活の目標を一緒に考え、目標を達成するために視覚的にまとめながら、自分自身のことを理解したり、考えたりしていくことを目指しています。振り返り等を大切にしながら自分で変化を実感できることを大切にしています。

高等部の生徒たちが自立に向けて、どのような課題をもち、具体的にどう取り組んでいるのか、簡単に紹介します！



普通科の2年生は、言語力・思考力向上を目指した学習をしています。短い評論文の要約や問いかけに対する自分の意見を書き、推敲を重ねるといった指導を行っています。今後は段階的に難易度を上げていきながら力をつけていくことができるように取り組んでいく予定です。

産技科3年生は、「みつめよう自分」「つながろう仲間」「拓こう未来」の学年テーマに合わせて、卒業後の生活や就労に向けた学習を中心に取り組んでいます。(例)「みつめよう自分：こんなときどうする？不安の解決方法」

不安：「現場実習先への道のりが覚えられない気がする。遅刻したらどうしよう。」

解決方法：これまでの経験から、視覚情報があれば安心だ。地図（俯瞰の視点）より、写真や動画をつないだものがわかりやすい。

解決策：実習先へのあいさつにあわせ、自分に使いやすい道順サポートツールを準備しておこう。スマホで必要と思われる場所（曲がり角、看板など）の写真を撮り、つないで保存し、実習初日に使用してみる。

実践：迷わず行けた。自信が持てた。今後も使って一人で行動してみよう！